

数字で見る土木学会



2019年6月1日現在

公益社団法人 土木学会 / Japan Society of Civil Engineers
企画委員会 & 土木広報センター

TEL: 03-3355-3448, cprcenter@jsce.or.jp
〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目外濠公園内
<http://www.jsce.or.jp>



個人会員

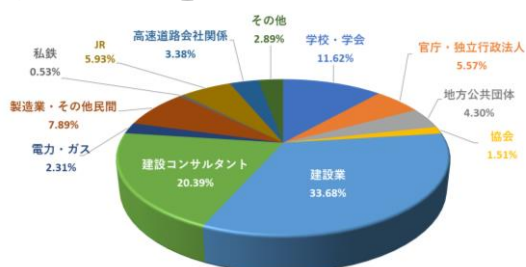
3.8 万人

法人会員

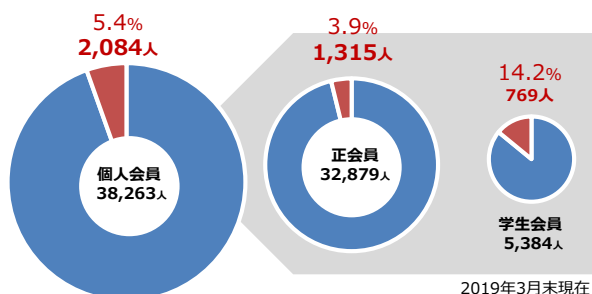
614

特別会員

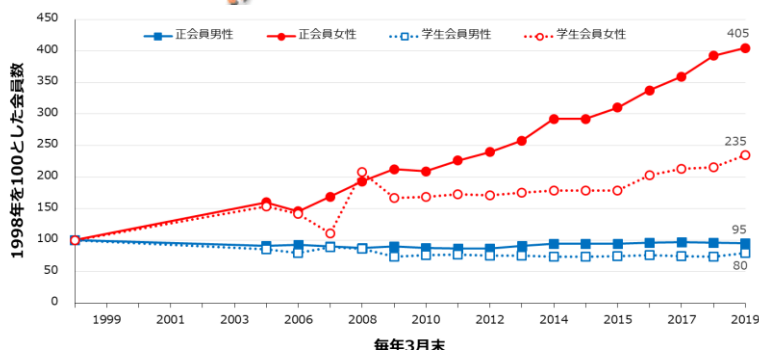
480



正会員（個人）の業種別構成



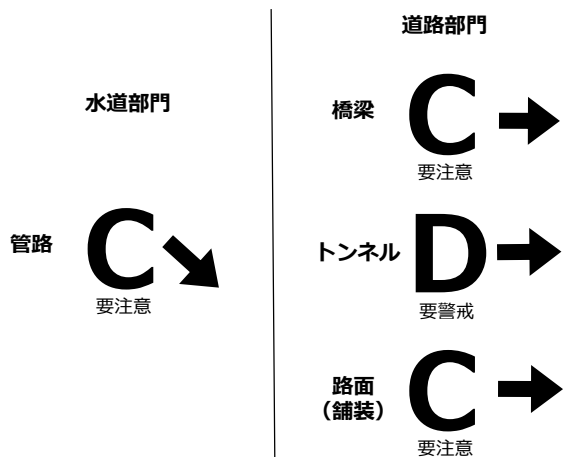
2019年3月末現在



女性会員は 2,084人 **5.4** % 21年で **3.2** 倍

2019年3月末現在

2019インフラ健康診断書（試行版）の公表



土木学会は第三者機関としてインフラの健康診断を行いました。結果を公表し解説することにより、インフラの現状を広く国民のみなさんが理解し、インフラの維持管理・更新の重要性や課題を認識していただくことを目的としています。

<http://committees.jsce.or.jp/reportcard/>

394選奨土木遺産

土木学会では毎年、土木施設を選奨土木遺産として選定しています。土木遺産の顕彰を通じて、歴史的土木構造物の保存に資することを目的として2000年度に始まり、全国各地に認定施設があります。



静岡県沼津市 御成橋

	北海道	東北	関東	中部	関西	中国	四国	西部
河川・海岸	5	6	18	11	5	8	2	8
ダム・砂防堰堤	2	3	11	4	2	4	2	4
橋梁	10	8	38	19	26	9	10	18
道路	2	2	10	3	4	2	2	3
鉄道	6	3	13	3	17	4	4	5
トンネル・隧道	2	1	10	6	9	1	2	4
港湾	7	3	4	1	1	1	1	3
上下水道	4	4	14	5	2	1	1	5
発電	6	0	7	4	3	1	1	1
灌漑施設	0	5	3	3	4	1	0	3
その他	4	5	8	2	4	9	3	4

支部、施設種別一覧

※1 複数の種別される施設も存在
※2 海外にも存在（ダム1, 上水道1）

<http://www.jsce.or.jp/contents/isan/2018.shtml>

海外との交流も土木学会の仕事の一つです。

2004～2018年度の間に、46回のジョイントセミナーを開催し、合計282名を派遣しました。
また2018年度は、アジア土木学協会連合協議会（略称ACECC）の主催による第8回アジア土木技術国際会議（略称CECAR8）が2019年4月16日から19日に東京のホテルメトロポリタンで開催され、アジア太平洋地域以外も含めた34の国や地域から700名が参加しました。



CECAR8 ACECC13学協会の代表の記念撮影

39のジョイントセミナー
282人を派遣
海外在住会員 169名



2018 International Workshop for Young Civil Engineers

115人／団体に 13の賞

1914年に創立された土木学会は、1920年から、功績のある事業、人を表彰してきました。現在では13の賞があり、2018年度は115人／団体が受賞しました。

功績賞、技術賞、論文賞、吉田賞、吉田研究奨励賞、田中賞などは1960年代にはすでにあり、これまでに数多くの受賞者を生んできました。これらの賞を受賞することは、土木学会の会員にとっては大変に大きな名誉です。

<http://www.jsce.or.jp/prize/index.shtml>



2018年度に受賞されたみなさん

2018年度 災害調査団

7回 144人

土木学会では、国内外を問わず大災害が発生した際に、発災後ただちに災害対策本部を設置し調査団を派遣して、専門的調査を行い、学術的、技術的見地からメカニズムの解明と防災上の提案を行っています。
東南アジアを中心とする海外へは、1999年から2018年の間に、38回、延べ396人の調査団を派遣しています。
2018年は、大阪北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震、台風21号沿岸災害に、会長特別調査団をはじめ、延べ144名の調査団を派遣しました。

<http://committees.jsce.or.jp/report/>



西日本豪雨災害
土木学会会長を団長とする調査団



2018年度に発行した書籍

21点

設計時の基準となる「示方書」や、様々な書籍を発行しています。



支部分会主催の行事

約 250 行事

約 12.0 万人が参加

“11月18日は土木の日”

土木学会では、「土木」の2文字を分解すると「十一」と「十八」になることと、土木学会の母体となった「工学会」の創立日が明治12年（1879年）11月18日であったことから、11月18日を「土木の日」と定めています。

2008年度から開催する「土木コレクション」、2018年度は土木コレクション2018「TOKYO DOBOKU FROM-1964-TO 過去から未来。新しいトウキョウへ。」をテーマに、1964年に開催された東京オリンピックの一大イベントの前後で整備された数々の土木構造物の歴史資料、図面、写真、映像などを展示しました。

土木コレクション2018を訪れた方

35,000人



土木コレクション2018（新宿西口）

活動項目

19

2015年に発足した若手パワーアップ小委員会は、活発に活動を行なっています。

数字は2017年度の活動です。活動項目19件、若手パワーアップ塾参加者60人、SNS投稿322件となりました。

ヤル気のある若手募集中！



若手パワーアップ小委員会

<http://committees.jsce.or.jp/kikaku03/>

若手パワーアップ塾の参加者

60人

SNS投稿

322件

2017年度の活動

土木学会論文集

土木学会は研究成果を、学術論文集として発行しています。現在、8分野、19分冊が刊行され、厳しい審査を通過した論文が刊行されています。2018年度には和文論文集に211編、英文論文集に13編が掲載されました。

8分野 **19**分冊 **224**編

<https://www.jsce.or.jp/collection/index.html>

土木学会は2001年に「土木技術者資格制度」を創設しました。特別上級・上級・1級・2級土木技術者の4つの資格について、認定技術者の審査と登録を行なっています。この資格は国土交通省の「公共工事に関する調査及び設計等の品質確保に資する技術者資格」に、47施設分野で登録されています。認定技術者は5年毎の更新制であり、更新には所定の継続教育 (CPD) の記録が必要です。2018年現在3,961名が登録されています。

47登録施設分野
3,961認定技術者数

<http://committees.jsce.or.jp/opcet/shikaku>



2018年度 調査研究部門 行事実施状況

行事数

187回

参加者数

22,159人

土木学会には、調査や研究を目的とした調査研究部門があり、29の委員会が設置されています。各委員会は、研究発表などの行事を開催しています。2018年度は187件の行事が開催され、22,159名が参加しました。



女子中高生夏の学校2018～科学・技術・人との出会い

Facebook フォロワー

35,309人

(2019年4月)

新聞掲載数

1,680件 (2018年度)

Facebook

最多いいね! 1,355件 (2018年1月)

Twitter

フォロワー1,923件 (2019年6月)

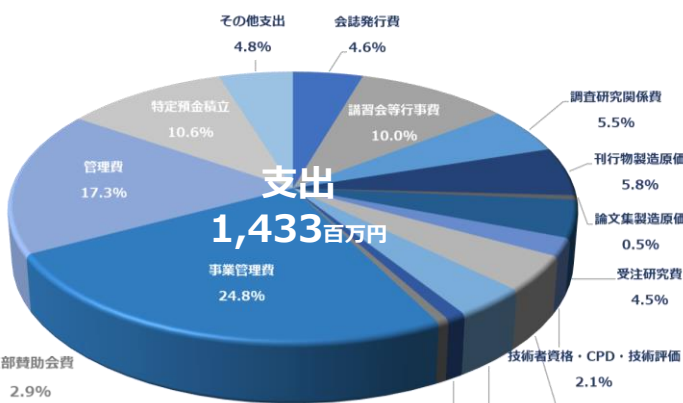
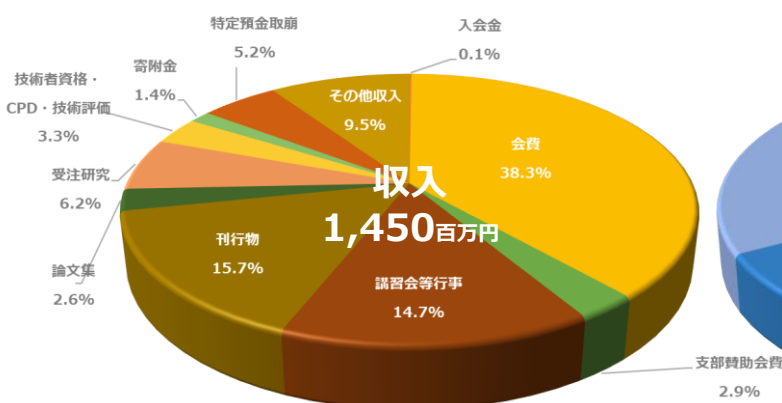
ウェブサイト

平均 760,035 月間PV (2018年度)

2015年に設置された「土木広報センター」を中心に、報道機関との懇談会や日々の情報発信が行なわれています。また2016年度には図書館委員会がオンライン博物館「ドボ博」を開館しました。



<http://www.dobohaku.com>



財政規模 **14**億円

2018年度決算額